



人間発達文化学類長祝辞



実行委員長開会のあいさつ



会長あいさつ



第138号

 福島大学
人間発達文化学類
同窓吾峰会 会報


進行担当者



学生歌指揮者



開会行事全体会場 学生歌斉唱

東日本大震災と原発事故の被災地である相馬市において、県大会が開催できたことは、何よりも先ず感謝とお礼を申し上げなければなりません。

五年半が過ぎても、甚大な被害を受けた相馬、双葉地域は復興復旧の途中であり、不便な生活と風評被害に苦しんでいる現実と、未だに避難している会員がいる中で、実行委員の皆さんのご苦労は想像に難くありません。

双葉支部長さんのお話によると、平成二十三年度の県大会は双葉支部の開催であったが、震災と原発事故



同窓吾峰会副会長

柳 沼 秀 雄

相馬大会から学ぶこと

のため中止となり、次回の二十八年度の開催を決意していました。しかし、現在も開催できる状態にはなっていないことから、相馬支部長にお願いして快諾を得たということです。

このような困難な環境の中にもかかわらず、実行委員会を組織し会議を重ね、綿密な計画と周到な準備をしてきた相馬支部長はじめ役員、実行委員、会員の皆さんの努力と熱意が伝わってきました。

マイクロバスで会場に着いた時、先ず目に入ったのは「駐車場」のプラカードを持って、雨の中傘をさし

て出迎えてくれたスリッパ姿のスマートな男性の姿でした。相馬大会の看板を見ながら中に入ると、ピンクのリボンが胸にした大勢の実行委員が笑顔で迎えてくれました。相馬支部の皆さんのおもてなしの心を感じた瞬間でした。

実行委員の胸につけたリボンは目立っていて立派なガイド役になっていました。郡山大会でも参考にしたいと思い、見本として数本を無心して頂いてきました。ウェディングパークの立派な会場に、一八六名の会員が集い、元気な姿を喜び合い旧交を深めながら、吾峰会の今後の隆盛を誓い合うことができたことは、大きな成果でした。

開会式、講演会、懇親会とも同一会場・丸テーブル使用であったが、明るく良い雰囲気であったと思

ます。

相馬市長の祝辞も興味深く、講演も相馬と言ったら「野馬追」ですから、その由来について理解でき、開催地区の特色が出ていました。懇親会も楽しい雰囲気でもっと時間が欲しいと感じたほどでした。

式典は格調高くも、講演は興味深く、懇親会は時間をたっぷり楽しめたいものでもらえる会にしたいものですが、相馬大会はこれら全てにおいてその通り実施できた素晴らしい大会でありました。

(昭三六卒 郡山支部長)



鈴木前理事へ感謝状贈呈 14



福島を訪ねる旅 7



ホームカミングデー 15 16



相馬大会実行委員会

平成二十八年度

同窓吾峰会相馬大会開催

大震災・原発事故を乗り越え
28・10・8 相馬に集い
笑顔で心の絆を広め、深め合う

開会のあいさつ (要約)

相馬大会実行委員長

長谷川 件七郎



公営住宅の建設などで、目に見えて復旧、復興が進んでおります。

本日は、ご来賓の方をはじめ、県内外から多数の会員のご出席を頂き、ここ野馬追の里、相馬市によるご出席で頂きました。誠に有難うございます。

ここ相馬市には二百六十年前慶長十六年、相馬利胤公により築城された中村城跡があります。築城当時の姿をよく残しており、県の史跡に指定されております。無形民俗文化財となっている「相馬野馬追行列」はここ中村神社から出陣しております。この相馬市も平成二十三年の東日本大震災では大災害を受けましたが、現在では、港湾施設の整備

会長あいさつ (概要)

同窓吾峰会長

齋藤 正寛



山々も粧い急ぐ十月となりました。

本日は相馬市長立谷秀清様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席をいただき、浜通りの北端、近世相馬中村藩六万石の城下町相馬市において、県内外から二百近い会員の参集のもと、平成二十八年度同窓吾峰会相馬大会が開催できますことはこの上ない喜びであります。ご承知のように、この大会は平成二十三年度に浜通り方部双葉地区で開催予定でしたが、平成二十三年三月の東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故により県大会を中止するとともに、浜通り方部を開催順序のローテーションからはずすことにしたため、今回は浜通りで八年ぶりの開催となりました。運営を担う相馬支部ではいまだにふる里に戻っていない会員もおられる中、早目早目に準備を

進め、本日を迎えられることに衷心より厚く御礼を申し上げます。

さて、大学の動向につきましては、本会顧問の千葉養伍学類長様が教職大学院の開設や農学類設置の検討状況に触れられると思いますので、私からは同窓吾峰会創立百三十周年の記念事業と平成二十七年の人間発達文化学類卒業生の就職状況について申し上げます。

はじめに、記念事業のことですが、たびたび御案内しております通り、本会が平成二十九年度に創立百三十周年を迎えることからいくつかの記念事業の準備を進めているところです。メインとなる記念大会の内容は、

○記念式典 ○一三〇お祝いコンサート ○祝賀会の三部構成となっております。特に「一二〇お祝いコンサート」は開催地郡山市が音楽都市として名高いことから、より印象的な大会になるように計画したものです。皆様もぜひ大会に参加され、感動を共有していただければ幸いです。大会は平成二十九年九月十日(日)、郡山市ホテルハマツにおいて開催いたします。

開催いたします。

次に、卒業生の就職状況のことですが、平成二十七年の卒業生は全体で二十八名でした。このうち、教員就職者は臨時採用を含め八一名(二八・八%)、民間企業就職者は一一三名(四〇・二%)、公務員就職者は臨時採用を含め三八名(二二・五%)、進学等二二名(七・四%)、その他二六名(九・三%)で就職率は九九・六%と四学類中最高となっています。

しかし、福島県の教員に限りますと、正規採用は幼稚園一名、小学校二二名、中学校五名、高校一名、特別支援学校六名で合計三五四八名という厳しい状況でした。各支部では新会員のだれがどこに勤務しているかわからず、入会勧誘も容易ではないと思いますが、学校、公共機関、会社等から情報を得て、支部組織の維持・拡充を図られますようお願いいたします。

本部でも卒業年次ごとのクラス代表を通して同期生の動静を把握するとともに、県外支部の結成や既存支部との懇談会の開催等に努めているところです。

彦先生による国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」についてご講演をいただきますが、相馬野馬追は東日本大震災のときも休止することなく続いた一千有余年の歴史を誇る行事ですので、その歴史と文化についてご理解いただき、相馬大会のお土産にしたいと思っています。

さらに懇親会では学生歌を高らかに歌った青春時代に限り、同窓の輪を広げ、絆を深め、大いに盛り上がってください。

最後に、本大会の開催にご尽力された相馬支部の「おもてなしの心」に重ねて感謝と敬意を表し、母校及び吾峰会の発展とご参加の皆様のご健勝を祈念いたしまして会長のあいさついたします。



次期「創立130周年記念大会」開催地代表あいさつ

来賓
祝辞

教育の復興をめざして

(要約)

相馬市長
立谷 秀 清 様



て、相馬市震災孤児等支援金制度をつくりました。日本国内外から支援をもとに、毎月三万円の生活費支援に加え、大学進学時の学費や生活費などを子ども達に支援しています。

皆さんこんにちは。福島大学人間発達文化学類同窓会相馬大会のご開催、誠にありがとうございます。私が市長に就任してから

これまでの間、福島大学出身の先生方には、大変お世話になってまいりました。特に東日本大震災では、厳しい状況のなか、皆様から多くのご支援をいただきました。そして現場の先生方は子ども達のために、さらに被災した地域住民のために本当に頑張ってくださいました。まさに二宮尊徳の御仕法にある推譲のとおり、皆さまのご活躍は、未来に永く伝わっていくであろうと思っています。

また、震災遺児孤児だけではなく、相馬市のすべての子ども達に対する支援も多々いただいておりますので、教育長の調整のもと、百万円を限度に、各学校独自の事業に対しての助成金として活用しております。今後も、福島大学学芸学部・教育学部・人間発達文化学類出身の皆様が築いてこられた教育の伝統を大切にして相馬市政の発展、復興に取り組んで参ります。皆様の益々のご活躍を心念申し上げ、相馬市長としての挨拶といたします。



地域と共に歩む人材育成を

福島大学人間発達文化学類

学類長
千葉 養 伍 様



同窓会相馬大会の開催、おめでとうございます。同窓会峰会会員の皆様には、日頃より福島大学人間

発達文化学類に対する多大なご理解、ご支援を頂いており、心より感謝申し上げます。また、原発事故による避難等で未だご不便な生活を余儀なくされている会員の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。国立大学ではいま大学改革が進んでいます。福島大学も財政的に厳しさを増す

愛と英知と創造

福島県相双教育事務所

所長
木村 政 文 様



福島大学人間発達文化学類同窓会相馬大会の開催、誠にありがとうございます。吾峰会は平成二十九年度に創立百三十年を迎えられ

界を始めとする各界へ多くの人材を輩出され、この相双の地におきましても、優れた教師文化が脈々と受け継がれてきております。さて、相双域内におきましては、東日本大震災及び原子力災害後、学校機能の移転や他の市町村での学校再開を経て、現在、避難指示解除等に伴い、帰還して学校を再開する動きが進んでおります。それらを見据えながら、相双教育事務所では基本理念を「愛と英知と創造」とし、常にワンラ

なかで、「地域と共に歩む人材育成大学」として、組織や教育の見直しに取り組んでいるところです。人間発達文化学類では平成十九年度から教職大学院を設置し、県内の教育委員会のご理解をいただきながら福島県の教育を支えるミドル・リーダーの養成を進めていきます。福島県の困難な課題に取り組むとともに新しい教育を担っていく教員の資質向上につながるようにこれまで以上に努めていきたいと思っております。また、福島

ンク上の教育活動の充実のための支援に取り組んでおります。吾峰会の皆様には、魅力的な学校教育の実現に向けたさらなるご支援やご助言を、今後ともよろしくお願い申し上げます。結びに、今後とも県内はもろろのこと、全国の教育界を支えるご示唆をいただくとともに、吾峰会のますますの発展と、ご参会の皆様のご健勝を祈念申し上げます。お祝の言葉とさせていただきます。

(代読・顔写真)
次長 午来勝頭様



全体会場 黙祷



受付風景

大学では新たな農学類設置に向けて既存学類の組織見直しが進んでおりますが、本学類ではこれまでの伝統と実績を活かしつつ、次世代の学校や地域を担う人材育成をめざして見直しを図っていきます。

講 演 (概要)

「相馬野馬追」の歴史と文化

講師 南相馬市博物館学芸員



二 上 文 彦 氏

野馬追は「祈り」である。

二上先生は、その本質を武威を目的とした合戦力維持よりも、祈りにあると力説された。

それは、何故、千年も途切れず継続されてきたかを追究すればわかるという。

野馬追の起源は、十世紀相馬氏の遠祖といわれる平将門が下総国小金原に野馬を放牧し、敵兵に見立てて追いかける軍事訓練と、捕らえた馬を神に奉納する神事として始まったらしい。

将門の末裔が相馬の地へ移住し、以降代々、相馬氏当主の年中行事として行われてきた。

江戸から明治への激変により、相馬氏の行事としてできなくなり、太田神社、小高神社、中村神社の三社合祭として今に至る。初日の「お繰り出しと宵



講演風景

乗競馬」、二日目の「お行列と甲冑競馬、神旗争奪戦」、三日目の「野馬懸」が震災にも途切れず行われた。中でも「野馬懸」は、国重要文化財指定の根拠になっている。

妙見に捧げる神聖な馬を追ひ、野馬懸で捕らえ、藩領内の安寧と繁栄を願うこと、すなわち祈ることが本質であるとのこと。どの神社でも見かける絵馬の原型にも通じるらしい。

野馬追を地元で見ながら育ち、当然のように知っていたつもりの私たちにも新鮮な驚きであった。



講演風景

未だ震災に苦しむ福島県や相双地方の人々のために、野馬追の本質である祈りを大事にしていかななくてはならないと肝に銘じた一日であった。

(昭五三卒・大谷記)

講師紹介

二 上 文 彦 先生

南相馬市出身、現在南相馬市博物館に勤務。相馬地方の歴史を研究するかたわら「相馬野馬追保存専門委員」を務め、野馬追の保存・伝承の指導に携わる。相馬野馬追に関する論文・研究報告は多数。当日上映した「国指定重要無形民俗文化財 相馬野馬追―真夏を疾走する伝統行事」は平成二十五年第十一回「全国地域映像コンクール」でグランプリを受賞。

参加者の一言感想

旧友との再会と講演に心高ぶる

古川支部事務局長 佐々木勝男

私は、浜通り地区大会に熱き期待をもっておりまして。それは「高校時の旧友との再会」と講演「相馬野馬追」の二つです。

大会当日は時々大粒の雨に見舞われる中、早目に宮城から車で向かいました。会場に実行委員の一人「旧友」が満面の笑みで待ち受けておりました。暫く旧交を温め今大会の想いを伺い、非常に心が熱くなりました。もう一つは講演です。

「相馬野馬追」は勇壮な

部分よりも、この地方の「繁栄と安寧祈願」を受け継ぎ行われており、この精神文化を東日本大震災の復興と重ね合わせて感じ取りました。更に、私は相馬野馬追の迫力ある映像から伝え広めるものをしっかりと心に受け止めることができました。実行委員皆様に感謝します。

(昭四一卒)



左から二人目が筆者

相馬大会に参加しての感想

郡山支部副支部長 柴崎 茂

次期開催地の一員として「何でも見て来よう」の旅でした。除染土の積まれた飯館沿線の風景を目にし、雨の中ようやく着いた相馬

でした。会場でも震災後のご苦労の話やご挨拶がありました。ご多忙中御臨席い

地域の特性を生かした大会

福島支部長 矢館 清孝

小雨の中、会場玄関のドアを開けると、実行委員の方々が温かく丁寧に迎え入れてくれました。開会行事、講演、懇親会を同じ室内で行った本会は、違和感もなくとても快適でした。

講演では、「相馬野馬追」の現在の様子、歴史、野馬追の真意(願い)、地域の日常に深く根付いた行事であること、中世以来、殆ど国替えのない全国でも稀な相馬地区だからこそ、その起源である「野馬懸」が延々と続いていることなどを知ることができました。

今回の大会は、地域の特性を生かし切った素晴らしい大会であったと感じています。相馬の歴史に触れ、懐かしい方々と至幸の時間を共にし、思い出が更に増えました。相馬支部の皆様は心より感謝いたします。

(昭四五卒)

山大会の目玉に思いを巡らし尿意の中、阿武隈の山を越え戻りました。

(昭四四卒)

実行委員の一言感想

伊達大会の 意志を引き継いで

相馬大会事務局長
高橋 清

あの大震災、原発事故の際、県内外の支部より物心両面に多大のご支援を賜ったことに感謝を申し上げます。現在も復興途上で実行委員会役員・委員、会員の

一部が避難を強いられ、中での大会開催でありました。県内外支部よりご支援を頂いたことに恩返しをする覚悟で実行委員会一同心を込めて取り組んできました。また、伊達大会の閉会のことばに「伊達大会で構築した絆を相馬大会に引き継ぎます」とのあいさつがありました。困難な環境の中での開催であっても伊達大会の精神を引き継ぐべく努力をして参りました。実行委員会役員会では厳しい討議を行い、実行委員会では温かく和を尊重し、楽しく、元氣よく活動できるよう配慮してきましたつもりで



事前打合せ

す。大学・同窓会を想う相馬の会員のエネルギーが大会をやり遂げた源と考えます。最後に「相馬野馬追の里」「民謡の里」相馬大会に参加いただいたことに感謝するとともに、次年度郡山での記念大会へタスキを引き継ぎます。(昭四一卒)

庶務係を担当して

庶務係 松本 安彦

「お久しぶりー」「お元気でしたかー」、会員の皆様方のにぎやかな声が、フロア一階の受付ロビーに響きました。十月八日、「平成二十八年度同窓吾峰会相馬大会」のスタートです。

例えば昨年の九月二十八日、第一回相馬大会実行委員会役員会が準備活動の始まりでした。「伊達大会」に誰が、どの様な視点で参加するかの相談でした。代表参加の後、十一月二日の第二回実行委員会役員会で基本計画ができ、長い準備活動に入りました。



閉会後実行委員へ会長謝辞

その中で一緒に記録係を担当していたFさんが本年一月に急逝し、今回の相馬大会に姿がなかったのが本

私に担当した「庶務係」は、総務係からの指示・指導の下、諸会議の開催通知や諸案内の作成・発送及び進行役が主な内容でした。中心となった「実行委員会役員会」は十回程度の開催となりましたが、役員の方々のご理解とご協力により、計画段階から、本日の大会運営までスムーズに終了することができ、感謝と安堵の気持ちで一杯です。(昭四四卒)

「ウェルカム」で 受付・接待

受付係 只野 恒雄

入口のドアが左右に開き、「こんにちわ」と明るいい声と共に本部役員の方々に続き、来賓・講師の皆様そして県内外各地区の会員の方々を「ようこそ」と笑顔で歓迎。次に二階のそれぞれ控え室に案内と接待。遠路のご苦労に対して慰労させていただきました。また受付にあたり他の係から応援を得て、より丁寧で温かいものとなりました。(昭四三卒)

進行係雑感

進行係 鈴木 進一

進行係は開会行事の基本計画に則り進行シナリオを作成することが主な役割ですが、初めての体験でしたので戸惑いがありました。しかし幸いなことに、前回の相馬大会で進行役を務められた先輩が、そのときのシナリオを保管されてお

会場係として

会場係 菅野 孝司

会場係の仕事は、大きく会場作成と駐車場への誘導であった。会場は当初予定した場所から変更になり、計画を再検討した。駐車場は二カ所になるので、お客様と地元の方を分けて誘導した。当日は雨になってしまい、駐車場係は濡れながら案内をしてくれた。最後に齋藤会長から温かい会

会務報告と諸連絡

吾峰会事務局長

千 葉 金之助

(要約)

- 来年度の創立百三十周年記念事業について
- 一 記念式典を平成二十九年九月十日、郡山で開催
- 二 記念誌「一三〇年のあゆみ」と会報記念特集号発行。各個人宛に送付
- 組織強化について
- 一 新潟支部で新組織編成
- 二 今年度の卒業予定者に



会務報告等

- 研究奨励事業について
- 一 昨年度の応募点数六、最優秀一、優秀五、選出二
- 二 今年度の応募点数七、平成一九年一月下旬表彰
- お願い
- 一 本会のホームページ充実のために資料提供を。個人情報に十分注意する。
- 二 賀寿(満九五歳)の表彰者紹介に資料提供を。
- 連絡
- 一 母校福島大学のホームカミングデー・大学祭に多数ご参加を。



懇親会
閉会のことば



万歳三唱



懇親会風景



乾 杯



懇親会
開会のことば



全体会
閉会のことば

特集 あれから六年め…

コミュニティ・スクールとして

いわき市立田人小・中学校長

平山 明裕

東日本大震災が発生してから、ちょうど一ヶ月後の平成二十三年四月十一日、震度六弱の直下型地震が田人地区を直撃しました。この余震によって、田人中学校の体育館は傾き、プールは全壊、校舎も天井が落下するなど、大きな被害を受けました。数日後、隣接する田人第一小学校（現田人小学校）で授業が再開され、その約二ヶ月後に中学校に戻って授業が再開されましたが、体育館のない中学校は、地区の体育館を借りるなどして対応するようになりました。

その後、児童生徒数の減少にも鑑み、平成二十六年に田人地区にあった小・中学校九校を田人小学校と田人中学校の二校に再編し、小中一貫教育推進校へ移行しました。翌平成二十七年には、田人小学校を小・中学校を一つとした校舎に整備し、小学校一年生から中学校三年生までが、一緒に学校生活を送るようになりました。そして、平成二

十八年度、田人小・中学校は、いわき市で初めてのコミュニティ・スクールに指定され、「田人地区の活性化」と「田人を支える人材の育成」を目的として、小・中一貫教育を基盤とした様々な教育活動を展開しています。

本校では、系統性・連続性を重視した九年間の学びを見据えた上で、小中教員による相互乗り入れ授業を実施しています。これにより複式学級の解消や専門教師による教科指導が可能となり、学力の向上につながるように努めています。また、運動会や文化祭など多くの学校行事を小中合同で行うとともに、小学校高学年の児童を、中学校生徒会の一員として生徒会役員選挙や生徒会総会など各種活動に参加させることで、いわゆる「中1ギャップ」を解消し、小中連携の推進を図っています。

さらに、田人地区の方々の協力を得て、地域を学習する機会を「たびと学」と

して設定しています。日本のクマガイソウの群生地を見学したり、田人の特産品であるこんにゃく芋や自然薯の栽培を行ったり、田人に伝わる伝統芸能の「田人太鼓」や「棒術」を学んだりするなど、子どもたちが地域の特徴を理解し、ふるさとを愛する心が育つように取り組んでいます。これらの事業を通して、「ふるさと田人への思いを深め、田人の未来を創造し、他と協働して目標に向かう

六年目の被災地

～本吉からのレポート～

本吉支部長

内海 輝幸

私達本吉支部は、気仙沼市と南三陸町をエリアにしています。先の東日本大震災では、南三陸町の志津川・歌津地区は甚大な被害を被りました。又気仙沼市は、海岸地区は勿論、奥深い内湾地区も津波と油火災で大被害を受けました。

千年に一度と言われる大津波は、予想を遥かに越える規模で、避難をためらう人や避難中の人をも呑み込み、多くの尊い人命を奪いました。更に家屋や田畑など全ての財産を流出させました。

挑戦できる人材」を育成していきたいと考えています。

（平一四院修 いわき支部）



ち着いた生活を取り戻した被災者がいる一方で、未だ不自由な仮設住宅に住み続けている方々も居ります。学校教育施設や社会教育施設の被害も大きく、再建や改修が進められています。が、再建が難しく、廃校になった学校もあります。また、少子化傾向は、沿岸部の人口減少で更に進み、小中学校の学区の再編が加速しています。

また、仮設住宅の敷地として、主に中学校の校庭が利用されています。新しい住宅への移転が進み、仮設住宅の集約化が検討されていますが、殆ど実行されていません。成長盛りの中学生が、運動が充分出来ずに卒業していくのが現状です。建物や施設の復旧は、比較的容易ですが、被災した子どもの中には、心の傷が未だいえない者が見られると、スクールカウンセラーが報告しています。被災者は、以前のような生活環境を取り戻していますが、心の復興はどうでしょうか。

現在、被災地は、復旧復興事業、新しいまちづくりやコミュニティ作りが進められています。防災集団移転住宅、公営住宅、自力再建等の住宅建設が進み、新しい住宅で落

■あれから6年目

東日本大震災、原発事故発生から六年が過ぎようとしています。大混乱の中、一年遅れで、「二本松大会」が開催されました。

その後、白河、会津若松、伊達と巡り、今回被災地の浜通り「相馬大会」を開催することができました。

さて、この間に役員もバトンタッチがありました。

・服部秀文会長から

・齋藤 正寛へ

・故河原田保一副会長から

・湯野尻 強へ

・故高橋道保副会長から

・高橋専治・柳沼秀雄へ

・遠原肇一副会長から

・長谷川件七郎へ

・齋藤正寛事務局長から

・千葉金之助へ

・中田スウラ学類長から

・千葉 養伍様へ

（学類長は、本会の顧問）

・新設事務局次長に

・峯島 和彦就任

・黒津忠勝会計部長から

・高野 光揚へ

・阿部昭生組織委員長から

・矢館 清孝へ

・故山内兵衛積立金管理運営委員長から長澤 徳子へ

・黒津忠勝事務局長から

・梅津 浩子事務員へ

次年度は創立百三十周年を迎えます。「あれから七年

目」本会の発展を祈ります。

福島を訪ねる旅

平成二十八年六月二十五〜二十六日

岩手県支部

会報「吾峰」が

とりもつご縁

岩手県支部長
小野寺 寛

いつも会員の絆を大切に
する会報をお届けいただき
ありがとうございます。(略)

このたび、会報を読んだ
いわき市の山口紀美子さん
からお手紙をいただきました。
大学の時の教育研究会
に所属していたとのこと
ですが、言葉を交わしたこと
はありません。

お礼をかねて、岩手県支
部が計画している「福島を
訪ねる旅」をお知らせした
ところお会いし、同行した
いとこの申し出をいただきま
した。これぞ、会報がとり



出迎えられた鈴木顧問と固い握手

もつご縁と感謝しておりま
す。

支部設立の際、ご多忙の
ところ服部会長と今野順夫
学長(いずれも当時)が来
られました。先日、会員の
及川剛さんが今野先生にお
会いし、同計画をお話した
ところ、ぜひ同行したいと
のお話をいただきました。
六月二十五・二十六日がと
ても楽しみでございます。
(後略)

(昭三五卒)

学芸学部校舎跡地で

山口紀美子

岩手県支部の「福島を訪
ねる」に参加したのは支部
長をしておられる小野寺寛
さんとおしてでした。交
流は福大生協食堂からでし
た。バスツアーの岩手のみ
なさんとは、ここで初めて
お会いしました。準備され
ていた席で待ち、お弁当を
食べながらの交流となりま
した。短時間でしたので、
みなさんとあまり話せなかつ
たことが残念でした。そん
な中でしたが、自著『奪わ
れた若き命』(幻冬舎、自

研修旅行を

企画・実施して

高橋 悦郎

今回、学生時代を過ごし
た福島大学をもう一度訪ね
てみたいとの思いから研修
旅行を計画しました。研修
旅行を計画するにあたり、
役員会では学生時代に思い
をはせ旧学生寮や浜田町の
旧大学も研修コースに加え
ました。

水沢駅東口からバスは出
発。車中では、学生時代の
思い出や自己紹介を行うと
ともに、学生歌も歌いなが
ら、和やかな雰囲気の中で
へ向かいました。

福島大学に到着し、生協
食堂で昼食を取りながら、
前学長さんからお話をいた
だきました。昼食後は、広
場で記念写真を撮り、その
後、前学類長の案内で図書
館を見学、近代的設備にみ
な驚きの表情でした。

次に福島大学から旧寮寮
跡地に向かいました。ここ
では事務局の方から建物や
仕事内容の説明をいただき
ました。塀の向こう側には
阿武隈川が流れ、今も変わ
らない風景に当時は思い出
されました。

次に浜田町の旧福島大学
跡地を訪ねました。バスの
中では競馬場の話や路面電
車の話で盛り上がっていま
した。現在の附属中学校正
門脇にある旧福島大学跡地
の石碑を眺めながら、はる
か昔の学生時代に思いを馳
せていました。

次に、旧如月寮跡地を訪
ねました。現在は古閑裕而
記念館になっていました。
古閑さんについて説明を聞
きながら作品に酔いしれて
いました。

宿泊場所の飯坂温泉「叶
や」では、懇親会に前学長
さんにも参加していただき
昔話で盛り上がり、交流の
輪を深めることができました。
翌日は、初めに片岡鶴太

郎記念館を訪れました。鶴
太郎さんのアトリエや彼独
特の作品の数々にふれ感激
しました。

サクランボ畑を横目に見
ながら中野不動尊に向かい
参拝後復興支援を兼ねて計
画した次の目的地宮城県亘
理町「鳥の海」へ向かいま
した。海産弁当店「フラミ
ング」では名物のほらこめ
しをいただきながら、お店
の方から震災当時の様子を
聞きました。

旅の最後に鳥の海ふれあ
い市場でお土産を買い、岩
手への帰路につきました。
(昭五五卒 岩手支部)

費出版)を求めているだ
いたことには感謝の気持ち
でいっぱいです。

食堂から図書館に向かい
ましたが、入ってすぐ明る
く広い空間が目に入りまし
た。とっさに学芸学部の関
覧室が浮かんできて、目の
前の空間がまぶしいほどで
した。古い木造校舎の図書
館との違いになるわけです
から、当然だったでしょう。
これが金谷川の校舎で感じ
たことですが、実はわたし
は、学芸学部であり図書
館を利用していませんでし
たのでかすかな記憶からの
印象です。

わたしの福大時代の読書
は、稲荷公園のすぐそばに
あった平和書房とむすびつ
いていきます。小さなこの書
店で本を求めては、読書に
励んでいたのです。高三の
三学期、図書館で目にとま
った本の前で、「今は受験の
前、大学に入ってから」と
思った記憶は鮮明です。

短時間の交流の中で学芸
学部跡地の土を踏んだとき、
わたしはどんなことを思い
出したか、そのことでどう
しても書きたいことがあり
ます。それは勤評闘争(昭
和三十三年)と所属してい
た教育研究会(教研)のこ

とです。

勤評闘争では福大にオル
グが入り闘争は先鋭化しま
した。階段教室の入口には
バリケード、そこからは授
業ボーイコットを呼びかける
自治委員会長の声が、スピ
ーカーからがらがん響いてき
ました。このような中、教
研では勤務評定についての
学習をして地域に入りまし
た。学生だけの行動になら
ないようです。先輩につ
いて大森地区に入ったこと
を覚えています。仲間と共
に成長できた教研での四年
間は忘れられません。
(昭三七卒 いわき支部)



いわき市から
ご夫婦で交流



母校跡地記念碑前で

平成二十八年年度
賀寿贈呈者

長寿 おめでとうございます

今年度の賀寿贈呈予定者は、大正十年四月〜大正十一年三月末日生まれの方です。前回の 137 号で紹介されなかった方で、新たに三名の方が判明しました。

◎遠藤 愛子様

福島

◎高橋 義一様

相馬

◎馬 ・久保田 誠様

相馬

◎印は、前回 137 号にお名前が紹介されている方 ◎印は、今回紹介された方
・印は、伝達された様子が本部に報告されたら、次号以降に写真と共に紹介する方

※ 本部事務局では、会員のお名前は把握できております。しかし、生年月日までは把握できておりません。各支部担当者または会員個人(家族・知人等)からお知らせくださいますようお願いいたします。

◎古山直一様(福島)



古山先生はかくしゃくとしていて、先生の福島市教育長時代、同助役時代の話をしてくださいました。特に市内に多くの銅像を設置したときの苦労など。現在銅像のある場所を殆ど憶えている記憶力の良さに脱帽しました。

◎佐藤 伸子様(郡山)



卒業後、福島地区で三校に勤務した後、結婚のため退職。在職中のことで忘れられないことは、子供達を防空壕へ避難させたことだと話されました。長いこと俳句に情熱を傾けていたが、現在はめり絵に色をぬることが楽しみとのことでした。たくさんのお孫さんに囲まれ元気にしておられました。

◎遠藤 愛子様(福島)



大谷先生は小学校からの同級生だったそうで、会報の賀寿予定者欄名簿を見て懐かしがっていました。吾峰会の会報は、渡利の方部から事務室に届けられたそうです。ご子息と一緒に、玄關まで送っていただきました(お元気です)。

◎高橋 義一様(相馬)



この度、本会より95歳の誕生日にあたりお祝いを頂きました。ここに本会の発展を祈念し、厚く御礼申し上げます。(ご本人の直筆礼状より)

◎阿部百合子様(伊達)

前略

この度は賀寿状と記念品をお贈り頂き、ありがとうございます。おかげ様にて95歳の誕生日を晴々と迎えることができました。ご厚情に感謝致します。伊達支部の皆様にも宜しくお伝え下さい。草々

(さいたま市へ移住・礼状)

遠藤愛子様のご子息様より

初めてメールします。私は会員(遠藤愛子、94歳)の息子の遠藤昌雄と申します。母が先日、8月1日発行の吾峰137号を拝見していた際、⑧ページの「平成28年度賀寿贈呈者」に自分の名前が載っていないことに気付いて、大変がっかりしておりました。母から吾峰会への問い合わせを依頼されて本メールを書いております。母は大正10年9月24日生まれですので、記事にある「今年度の賀寿贈呈予定者は、大正10年4月〜大正11年3月末日生まれの方です。」に該当します。単純な記載漏れだったのか、あるいは何らかの基準から外れた理由があって記載されなかったのか、いずれにしても事情を是非とも承知したいと存じます。本メールに返信していただけるなら幸いです。

つなぐ むすぶ 広げる

教育学部柔道部歌

「汗と血潮にまみれた道着」の絆

柔道部OB会 黒津 忠勝

私が入学した昭和三十八年当時、は学芸学部には柔道場がありませんでした。先輩たちは安心して練習できる環境整備を図るために部員獲得や顧問の先生の招聘にと一生懸命取り組みました。

私たちは実力UPとご挨拶を兼ねて積極的に地域に出ていきまし。経済学部柔道部や医大柔道部、日大工学部柔道部との交流をはじめ市内の高校柔道部訪問、町道場訪問、県内各地での合宿などできることを次々実行していったのです。私は諸先輩や選手をはじめ、たくさんの方の出会いから多くのことを学び、かつそれぞれの思いを託されたように感じました。他の部員も私と同じことを感じていたと思います。伴って我が部に自然に進取・篤実・律儀の好ましい気風が醸成されていきました。

昭和四十二年五月大学の理解が得られ多くの人々の祝福をいただいた念願の道場開きができました。常時練習できる環境が整い、内容も年を追って充実していったのです。一年先輩の箭内さんたちは卒業後すぐにOB会を

結成し絆を大切にして現役を支えました。毎年恒例のOB懇親会は各地持ち回りで開催されて五十年続いています。今夏は矢吹町の観音湯で開かれました。年を重ねて往年の一升酒の酒量はめっきり減りました。

「汗と血潮にまみれた道着」(柔道部歌冒頭)で築いた仲間は今も深い親交で結ばれていると感じます。(昭四二卒 福島支部)





第四回 フォトクラブ・T 写真展

場所 ふくしんギャラリー

福島市万世町1-2 024-528-1845

期間 平成28年12月1日～12月6日

12月1日(木) 初日 13:00～16:00

12月2日(金)～12月5日(月) 9:00～16:00

12月6日(火) 最終日 9:00～15:00

「会員名」 岡田 貞夫 菊池 道雄 佐々木 徳芳
高野 光揚 高橋 忠 八島 喜一
野崎 修司 矢部 清孝 山寺 精吉

代表(事務局) 高野光揚 024-553-7251
福島市瀬上町字町裏4-18

ご覧いただければ幸いです

仲間たちの「想い」発信⇕受信

恭
頌
新
禧

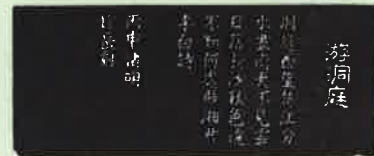
平成乙酉年元旦



福島市春日町四番十五号

鈴木

(健
一
岳)



平成29年の年賀状



平成28年2月13日、「片野一先生・天形健先生退職記念パーティー」が、ウエディングエルティで開催され、教育学部および人間発達文化学類で美術を学んだ卒業生180人がお二人の退職を祝いました。(写真提供：三浦副学長)

新支部長に就いて

伊達支部長に 就任して

伊達支部長 松浦 常雄

去る六月の支部理事会において伊達支部長に選任され、四か月になりました。

町議会をはじめ、多くの仕事を抱えており、これまで会議や大会へ参加できないこともありましたが、この務めを十分に果たせるか心配がありました。前任の支部長さんにこれ以上負担をかけることはできないと考え、引き受ける決心をしました。

吾峰会の会員も高齢化が進み、支部の活動にもいろいろな困難がありますが、現状を受け入れながら、無理をせず、会員みなさんの親睦を深め、心のよりどころとしての吾峰会となるように、精一杯運営に努めています。

(昭四一卒)



支部長の任を 託されて

南会津支部長 渡部 雄次

二十八年年度の総会において支部長の任を託され、その重みを感じている次第であります。

総会は型通りではありましたが二十七年年度の庶務報告及び決算の承認と二十八年年度の材行計画並びに予算についても承認されました。

今年度は役員の改選時期でありましたので、事前の役員会で討議した案を提示し、新役員を承認していただきました。

当支部の状況は現職会員の数はある程度例年通り確保されても、退職会員は年々減少の傾向にあり、役員選出に当たっては大変苦しいたしております。

今年度は退職会員が三十六名で新入会員は無しで、八十歳以上が十三名です。そんな中で何とか支部長以下で役員を選出することができました。

支部運営の要となる事務局長には川島敬章田島小学校長さんをお願いし、お骨折りをお掛けすることになりました。

支部運営に関する課題は諸々で、新入会員の減少と高齢化が一層進み、役員の引受け手がなく行事等への取り組みが困難なことです。従って現在は総会を開催し、その後に懇親会を実施する程度になっていきます。

しかし、これらへの参加者も少なく盛り上がりに欠けております。開催時間を夕方五時以降に設定し、現職者にも参加しやすい配慮をしているところです。

特に、当支部としては懇親会に重きを置き、退職者と現職者との交流が深められる事を目指しており、役員や事務局からの積極的な参加の働きかけをしています。結果が上がってきています。支部長を引き受けてからあれこれ解決策で頭を巡らせてはみたが、名案は浮かびません。

しかし、伝統ある吾峰会員として誇りを持ち役員と手を携えて、総会等への参加者の増を図り、現・退職会員の交流が盛り上がり、南会津地域の教育の推進に少なからず貢献できるものと信じて先頭に立って行動していきたいと思っています。

各支部の支部長さんや会員の皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

(昭三七卒)



相馬大会の筆者

今、改めて、 考えること

安達支部長 宮前 貢

平成二十八年六月の総会で支部長に選任されました。これまでも常に心がけてきたように誠実に務めを果たしたいと考えております。

この総会で、本支部が永年に亘り検討を重ねてきた年会費の値上げが承認され、次年度から年五百円が千円になりました。限られた予算を有効に執行するよう鋭意努力された先輩役員のお力をしっかり受け止めて、本支部活動の充実・発展を目指し、何に重点を置いて活動し、予算執行するか具体的に提案したいと願っています。

併せて、本支部会員数の減少(激減)の実態も視野に入れていかなければならないと考えています。

現況と今後心掛けて いきたいこと

岩瀬支部長 力丸 丈夫
吾峰会岩瀬支部は須賀川市、鏡石町、天栄村の三市

安達支部〈年齢構成別会員数〉

卒業年次	会員数	年代別	会員数
昭16~23	13	13	九十代
24~28	37	93	八十代
29~33	56	90	七十代
34~38	52	46	六十代
39~43	38	126	五十代
44~48	19	97	四十代
49~53	27	31	三十代
54~58	49	18	二十代
59~63	77		
平 1~ 5	63		
6~10	34		
11~15	21		
16~20	10		
21~25	6		
26~28	12		

先日、支部名簿を使い、卒業年次を手がかりに支部会員数を数えて大変驚きました。卒業年次をもとに年齢を考えたので、正確でないところもありますが、五年区切りで整理した結果が左の表の通りです。

平成二十一年三月から同二十八年三月までの卒業の現職教員がわずかに十八名という驚くべき数値。七、八、九十歳代の多くの皆様にも支部運営を支えていただいているという実態。時折り、耳にする「自校の平均年齢は、五十三、四歳」という話は、この表からも読みとれ、改めて本支部の切実な課題を実感しました。

本会会長齋藤正寛先生が「吾峰」第一三七号で「農学類の入学定員が各学類の定員を充てることになった場合」の心配を書いています。私は、本県教員採用者数のハードル、人間発達文化学類入学定員減、そして、附属小学校での教育実習生の激減などの実態を考えると今後の本支部運営は、会費値上げだけでは対応できないときがやってくるとしみじみ思っています。

各支部の状況なども教えていただき、対応策を考えていきたいと願っています。

(昭三九卒 安達支部)

ここ岩瀬支部に居を定め多くの先輩後輩によって現場で微かに入り細を穿った指導をいただいた。振り返れば「人は人によって人になる」を実感感謝する中、前支部長の肩の荷を下すことに貢献はできないと思うが、お引き受けし努力することとした。

しかし小康状態であった病魔に襲われ「緊急外来即入院」、まさかのスタートになったが、新進気鋭の副支部長二名の快諾で更に心強い組織になった。「老体をいたわりつつ出来ることを・出来るときに・出来るだけ」と思い会員相互の健康を最重要として務めていきたい。

厳しい財政状況のなか、年金生活者であることの現実から会費値上げを避けたいと考える。そのため出口を抑えて、移動での出費は安全第一で切り詰め、予算流用で乗り切っていた。

当支部も同様に高齢化が進み「お元気ですか」の生きた言葉を掛け合い、出来る限り顔を合わせて吾峰会報を手渡しするように心掛けていた。集金事務中には「あなたは何て言う人？」と親しみやすく話しかけてくる会員や寿会員（九十歳

以上会費無料）もおいでになるなど心強い。

主たる支部活動としては、年に一度の評議員会、総会、懇親会を開催し、意見交換を図っているものの、いずれの会合も例年出席者が少ないのが悩みである。多数が諸般の事情による欠席であるが、会員の一部であろう総会に出席するのは「役員である」との誤解を解き、今後は一般会員の総会出席者数の増加をめざし総会・支部運営の改善充実に理解を促めたいと考える。まだ程遠い三・一一（中学校卒業式）からの復旧復興。浜通りの各会員の慟哭は。

灌漑用人造湖の通称藤沼湖（須賀川市長沼町）の濁流は一気に下り、八名（中学生を含む、幼児一名不明）の命を奪い、屋根と土台が切り離れた、まさに海の津波と同じ光景。「内陸津波か陸津波か」。幸い分かれ濁流に見舞われたものの、園児職員無事であったのが何より。

津波（規模・被害違っても）体験した支部長の一人として浜通りの支部長と心同じくして、日頃の「思いの疎通」に努めたいと考える。

（昭四六卒 岩瀬支部）

若い人へ ひびく



不易と流行

二本松市教育委員会教育長

小泉 裕 明

平成二十三年三月十一日の東日本大震災から五年八ヶ月が過ぎ、校庭や住宅の除染作業が進んでいます。平成二十三年四月は現在の学習指導要領が完全実施となりその改訂の基本的な考えの中に「生きる力育成」「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視、授業時数を増加」等とあり英語活動も導入されました。

本市の英語活動では生の英語に触れさせたいと外国人講師を採用し、学級担任と一緒にT・Tの授業を行うようにしています。その英語活動は次期指導要領改訂では「英語科」となります。

平成二十八年八月中央教育審議会の教育課程部会教育課程企画特別部会のまとめ（案）の中に、これから児童生徒に身に付けさせたい三つの柱が示されました。その中には、「学習内容

を深く理解し、社会や生活で活用出来るようにするためには知識の量や質と思考力の両方が重要。学習内容の削減は行わずアクティブ・ラーニングの視点からの学習過程を質的に改善することを目指す」とあります。新学習指導要領はこれから示されるものであります。が、いつの時代も授業を考える際には「不易と流行」を考えたいと思います。

うになれば、中一ギャップが少なくなると考えます。そのためには中学校区で九年間を見通した学習の仕方や生徒指導について協議し、中学校区的全教職員が理解し指導に当たることが大切であると考えます。今後ともグローバルな社会に生きる子どもが楽しく学べるよう取り組んで参りたいと考えております。（昭五一卒 安達支部）

授業実践こそが、教師の命

玉川村教育委員会教育長

富岡 ケイ子

小学校や教育委員会に勤務し、教育に四十六年間携わった者として、月並みだが、やはり、「教師は授業実践が命」と伝えたい。

自分の教職時代を振り返ってみると、県大会、地区研究会、公開授業、校内授業研究と数多くの授業実践の機会を得、沢山の方々から指導助言をいただいた。多忙の中にも、充実感とやりがいを感じながら教師として、大きく育てていただいたと感謝している。

そういう様々な実践を通して、自分なりに納得・実感していること、それは、『他人に見られることで、ほどよい緊張感が生まれ、研究心が沸々とわき教師としての授業力が育つ。また、他の先生方の授業や研究の姿勢を見ることで、刺激され新たな自分への挑戦意欲が出てくる。結果的に教師

手元に、義母の大切な遺品がある。昭和十五年度と十六年度の『教案簿』二冊である。今から七十六年前の日報、教師の記録である。そこには、毎日、毎時間の「教材・目的・準備・過程」が記されている。当時の教科や授業展開がわかる宝物。具体物の提示、主体的な活動、操作活動等も工夫され取り入れてある。また、三十数年前の私の実践記録的な学級通信からは、「学ぶことの楽しさを

体験させ、友達と学び合い、学習意欲を高める」ことを念頭に置いた授業の展開、その学習状況を家庭にも知らせていたことがうかがえる。今推進されている「アクティブ・ラーニング」に繋がっていると思う。

豊かな体験の重視や主体的な児童・生徒の育成は、いつの時代も意識し脈々と受け継がれている教師文化ではないかと感じている。

そして、義母が残した『教案簿』から「教師は、いつの時代も、研究と修養なんだよ。」という声が聞こえてくる。

(昭四六卒 石川支部)



(今から七十六年前の教案簿(二冊))

会員のお名前

見ました
聞きました

(敬称略) ⑤:新聞、①:テレビ、②:その他

- ① 津田 智
② 小泉 明正
③ 久保倉里美
④ 深谷 渥
⑤ 豊田 康裕
⑥ 遠藤 徳
⑦ 千葉 麻美
⑧ 懸田 弘訓
⑨ 三浦 恒彦
⑩ 阿部 智佳
⑪ 渡辺 智幸
⑫ 佐藤 季
⑬ 原田くるみ
⑭ 朝賀 俊彦
- ⑤ 附属小学校のプール開きの歌作詞
⑤ 福島民報出版文化賞「福島県の道路元標」一里塚元標・一里塚P⑬
⑤ リオ五輪四百障害出場予選惜敗
⑤ ①今季限り現役引退四百障害日本記録保持者
⑤ 第19回ふくしま平和美術展出展
⑤ 「トランヴェール」JR東日本「宮城はなぜ金の宝庫なのか？」
⑤ 文化・スポーツ知事感謝状受賞
⑤ 今季限り引退。陸上四百日本記録保持者。世界で活躍。ママでも活躍
⑤ ①矢吹町名誉町民表彰P⑬
⑤ 福島県文化功労賞受賞P⑬
⑤ ②ホームカミングデー「びこらいぶ」オリジナルソング「いる」披露P⑬⑭
⑤ ミス・ユニバース宮城大会グランプリに輝く。今年の日本代表選考会へ
⑤ 市町村対抗県縦断駅伝富岡アンカー
⑤ 県女性経営者女子学生懸賞作文金賞
⑤ あんぱ柿の絵本「カッキーとカッキーナの夢」の挿絵を担当
⑤ 福島大次期「人間発達文化学類長」



文化・スポーツ知事感謝状を受けた(左から)遠藤さん、



文化功労賞を受けた斎藤さん(右)と懸田さん



会員の佐々木十志春さん



レース後、花束を手に笑顔を見せる千歳麻美選手(右)

- ⑮ 小沢 喜仁
⑮ 武石この実
⑮ 海野 和夫
⑮ 高濱 兼二
⑮ 東北総体陸上優勝者…⑤新宮美歩(女子八百リ)、青木沙弥佳(女子四百リ・女子四百リ障害)、武石この実・新宮美歩・青木沙弥佳(女子千六百リリレ)⑮
⑮ 県総体陸上優勝者…⑤安部美南(棒高跳び)、新宮美歩(女子八百リ・四百リリレ)、青木沙弥佳(女子四百リ・四百リ障害・四百リリレ)、武石この実(女子四百リリレ)
⑮ 東北学生陸上競技選手権大会優勝者…⑤浅沢 豊(男子十種競技)、安部遥香(女子百リ障害) 青木成実(女子走り幅跳び)
⑮ 第五十回福島市美術展…⑤明石英子(記念市美術大賞受賞…彫刻)、高野光揚(市美術賞受賞…写真) 小松伊勢子(市美術賞受賞…日本画)
⑮ 第4回フォトクラブ写真展…⑤会長…高野光揚、会員…岡田貞夫、菊池道雄、佐々木徳芳、高橋 忠、八島喜一、野崎修司、矢館清孝、山寺精吉(P⑨仲間たちの「想い」発信…)
⑮ 第二十八回福島県篆刻会展…②鈴木健一(理事)、佐々木十志春(会員)



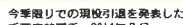
晴れやかな表情で競技生活を振り返った久保倉選手

12/10 福島民報



⑮ 表紙から 高濱兼二さん

輝いたトップラナー



日本選手権リレーでラスト

陸上・千葉引退

千原選手は福島1年の2004（平成16）年に400歳で日本記録をマーク。07年の世界選手権では日本人女子で初めて短距離種目で準決勝進出を果たすと、08年の静岡国際で現在の日本記録の51秒75を出した。10年に結婚、翌年には出産し、休養明けにママさんランナーとして復帰。昨年の世界選手権北京大会にも出場した。しかし今季はけがが多く、24日

ママでも挑戦

退発表に、関係者からは驚きや、
これまでの功績をたたえる声があつた。福島陸上競技協会の鈴木浩一会長(84)は「県にとまらず世界で活躍した。残念ではあるが長い間、苦勞さまでしたと伝えたい」と話した。

片平俊夫前会長(72)は「スプリンターで出産から復帰するのは、がなにと」とし「よく頑張った偉大なアスリート」とたたえた。

自著を手に半世紀を振り返る懸田氏



懸田 弘訓氏 79

10 / 13 福島民報

二本松市表二丁目484の3

郷土文化究め半世紀

高校の音楽教諭を務めるが、二十代から民俗芸能を研究して半世紀になる。昭和五十四年、民謡「会津磐梯

「山」の歌詞の元になったとされる「玄如節（げんじょぶし）」を二十一年近くかけて発見した。伊達市霊山町生まれ。保原高、福島大学

当時、音楽の授業の題材が西洋音楽で占められているのに疑問を抱いていた。日本の音楽も扱おうとテープでわらの会、副理事長を平成二十七年から務め、海江町の請戸の田植踊（たうえおどり）などの団体を守る活動を支

道路元標丹念に調査

大正期に、各市町村の基準点を示す標石として、法令により設置された県内の道路元標の現状状況を調査し、写真と住所、当時の世帯数、人口などをまとめた資料集。六年をかけて全市町村を回り、

現存する二百五十所を含む四百二の元標を網羅した。

県の資料によると当時県内には四百二十一市町村があり、複数の村で一カ所に道路元標を設置するケースもあったという。

東日本大震災の津波により流されたものや所在不明の元標まで、設置されていた位置や現状をつぶさに記録。

丹念な実地調査に基づくデータにより、道路元標への興味を向けさせるだけでなく、地域

「歴史の証人」後世に



小泉明正さんの話
現在は無用の長物とされる物も歴史の証人。まためておかなければならぬ、との思いで調べた。刊行後、読者からの連絡で新たに二カ所が判明した。訪ね歩いた地で出会った全

小名浜二、好間一の各々とも文化財の記録として価値がある。『地図や写真の撮影日』が全てにあると良からた。との指摘もあったが「記録として残すべく重要なもの」で研究資料としての完成度が高評価につながった。

② 7/21

民報出版文化賞「福島県の元標」正賞



福島市の元中学校長
CNPPO法人県緩和ケ
ア支援ネットワーク事
務局長の海野和夫さん
は二十八日、市内
の全小中学校七十校に
「Q&A不登校問
題の理解と解決」を贈
った。

本間教育長に本を手渡
す海野さん（右）

本紙の教育連載担当海野さん
不登校解決へ著書贈呈

⑰ 福島民報（福島市内版）

活動通じ地域貢献

遠藤徳さん 好きなこと
をずっと続
けてきた中
で、大変光
栄でありが
たく、皆さんに感謝したい。
若い優秀な作家も多く後進
育成を含め、今後も文化活
動を通じた地域貢献をして
いきたい。



好きなことをずっと続けてきた中で、大変光栄でありが

支援活動 経験を歌に

福島の三浦さん作詞・作曲



福大ホームカミングデー参照
P ⑮ ⑯
記念祭でピアノを演奏する三浦さん

た
よ
り

想いを
発信・受信

郵便はがき

9608103



福島市舟場町ターミナル
福島大学街なごプラン舟場内
福島大学人文学部文化学類
同窓会 御中

ふたご市

可なり百合子

※住所は個人情報のためぼかしています。

事務局だより

(1) 次年度は本会創立百三十周年

○関連P⑤の会務報告等

(2) 新潟支部を新しい組織で立ち上げ

○平成二十八年十月八日相馬大会当日峯島事務局次長出席のもと会合を持った。

・新支部長に 堰 勝弥

・顧問に 白井民司、松井 等

・事務局長に 佐藤八郎

・地区幹事に 山川辰也、真柄正幸、相澤健蔵、山本 武等の予定者で進めていくことになった。

(3)

研究奨励事業表彰式は、一月二十五日に実施

○詳しくは、次号一三九号で紹介する。審査結果は次のとおりであった。

☆最優秀賞

・日本語版ロバート・フィルマー著作集の作成

個人 南会津支部 渡部 秀和

☆優秀賞

・学究の道をめざした一青年の命を奪った戦争

個人 いわき支部 山口紀美子

・放射能汚染で苦しむ福島県の子どもの現状と今後の学校教育の方向性

個人 福島支部 古関 勝則

・ポジティブコミュニケーションでつながる学級集団作り

団体 郡山市立行徳小学校 (代) 遠藤 正則

・ともに学び育つ子ども一人一人の問いを生かし、豊かな学びを創る

団体 郡山市立金透小学校 (代) 柳沼 雅俊

・共に関わり合い、自らを高める子どもの育成

団体 郡山市立芳賀小学校 (代) 遠藤 俊樹

・互いに学び合う学習集団を育て、確かな学力を身につけさせるための授業はどうあるべきか

団体 郡山市立緑ヶ丘小学校 (代) 鈴木 文昌

第2回理事会を開催

○平成二十八年十一月二十二日(火)午後、国際交流会館で、常任理事会と合同開催となった。

・会議に先立ち、齋藤正寛会長から長年理事を務められた鈴木信良前理事に感謝状の贈呈があった。特に、二度にわたる会員名簿の作成に多大な貢献をされた。(P①写真参照)

謹賀新年

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします
本年もよろしくお願ひ申し上げます

平成二十九年 國

福島大学人間発達文化学類同窓会 吾峰会

〒960-8103

福島市舟場町四一三〇 福島大学街なごプラン舟場内

電話 〇二四(五二九)七〇八一

会長 齋藤 正寛

副会長 柳沼 秀雄

湯野尻 強

長谷川 律七郎

監事 鈴木 狗子

柴崎 茂

事務局長 千葉金之助

訂正とお詫び

前号(一三七号)に間違いがありましたので、以下のように訂正します。大変ご迷惑をおかけしました。心からお詫び申し上げます。今後は、十分注意をしながら編集してまいります。お気づきの場合はご指摘・ご指導をお願いいたします。

○P⑩会員のお名前見ました・聞きました

③消防功労者・岡田 務↓(正) 岡田 努

P⑧ 高橋義一様直筆



人間発達 文化学類だより

母校 福島大学の今

新聞の切り抜き縮小版は
いずれも福島民友新聞より

「開発型」への転換が鍵

Fukushima Industry 4.0



スペシャリスト
に聞く(完)



「イノベーション・コースト
構想は平成の産業興業だ」と
話す小沢氏

あさか・としひこ 甲府市出身。東北大学大学院工学研究科博士課程を経て、福島大学教育学部教授。共生システム工学専攻長などを歴任。福島大の理事・副学長として研究・地域連携を担っている。専門は機械工学で、特に材料力学。62歳。

小沢喜仁氏

福島大副学長

に移行できるかが鍵となる。述べた。

小沢氏は「東北には指示され

福島大の次期学類長に決まった3氏は5日、福島民友新聞社のインタビューに応じ、抱負などを語った。任期はいずれも4月から2年。

大学院の礎築していく

4月に教職大学院が開成の伝統を守りながら、社会の変化にも対応しながら地域に貢献していく。たが上が大きな目的。県教委などとの連携を大事にしなが、大学院の礎築していく。きたい」



あさか・としひこ 新潟県高柳町(現柏崎市)出身。東北大学大学院文学研究科博士課程を経て1994(平成6)年に福島大教育学部講師。専門は英語学。51歳。

人間発達文化・朝賀俊彦氏

福大次期学類長 3氏抱負を語る

「教職大学院のほか食農学類の開成など、大学は変化の時期にある。人間発達文化学類も魅力的な組織に発展していく必要がある。先進的教育学部時代からの教員養成の取組を進めたい」

「大学が進める組織見直しへの対応は。――本県で求められている

「教職大学院のほか食農学類の開成など、大学は変化の時期にある。人間発達文化学類も魅力的な組織に発展していく必要がある。先進的教育学部時代からの教員養成の取組を進めたい」

「教職大学院のほか食農学類の開成など、大学は変化の時期にある。人間発達文化学類も魅力的な組織に発展していく必要がある。先進的教育学部時代からの教員養成の取組を進めたい」

「教職大学院のほか食農学類の開成など、大学は変化の時期にある。人間発達文化学類も魅力的な組織に発展していく必要がある。先進的教育学部時代からの教員養成の取組を進めたい」

「教職大学院のほか食農学類の開成など、大学は変化の時期にある。人間発達文化学類も魅力的な組織に発展していく必要がある。先進的教育学部時代からの教員養成の取組を進めたい」

「教職大学院のほか食農学類の開成など、大学は変化の時期にある。人間発達文化学類も魅力的な組織に発展していく必要がある。先進的教育学部時代からの教員養成の取組を進めたい」

同同同同同同

県総体陸上優勝者
東北大学陸上大会

- | | | | |
|--------|---------|------|------|
| 安部 美南 | 女子棒高跳び | 三M四〇 | 県新記録 |
| 矢走 拓斗 | 男子一万 | | |
| 小野 莉奈 | 女子千五百 | | |
| 吉田 菜穂 | 女子百 | | |
| 高橋 美香子 | 女子百・四百 | | |
| 浅沢 豊 | 男子十種競技 | | |
| 安部 遥香 | 女子百 | | |
| 青木 成実 | 女子走り幅跳び | | |

優優優二優優優
勝勝勝位勝勝勝

人間発達 文化学類紹介

◆専攻紹介

人間発達専攻
人間の発達を深く理解し、自立をサポートする実践力と態度を育てる。

文化探究専攻
領域を超えた幅広い知識と現代的課題に挑む問題意識と探求力を形成。

スポーツ・芸術創造専攻
身体や感性の可能性を追求し、スポーツ・芸術を通して地域文化を創造。

学類が展開しているプロジェクト

自然体験実習
入学したばかりの学生が企画運営する2泊3日の小中学生との交流事業です。

学校ボランティア学校教育支援実習
教職を志す学生が、自分の意志で先生や子どもたちのお手伝いをします。

OECD東北スクール
震災後の東北と日本の担い手を育てる国際プロジェクトです。

遊びと学び教室「未来のたね」
原発事故から避難してきている子どもたちの支援活動を展開しています。

(福大HPより)

写真で見る

福島大学ホームカミングデー

平成二十八年十月二十九日(土)開催される



記念講演① 南 俊二氏



同窓会会長あいさつ



学長あいさつ：大学の現況



記念講演② 伊藤智也(学生)さん



ぴこらいぶ(異世代間音楽交流事業)



卒業生との交流会：卒業生サロンであいさつする中田スウラ副学長



ぴこらいぶ(右：三浦恒彦さん)



「曲がり屋のある風景」



佐藤 和寿(昭30卒 福島支部)

福島市に在住。「八十の手なぐさみ」と、創意工夫をした新しい造形を考えて、目下試作活動をしている。
材料は畳の切れ端や板の切れ端、松ぼっくり等。

吾峰ギャラリー in 一三八号

編集後記

▽「相馬大会」に感動しました。大震災から五年半で、念願の浜通り開催が実現しました。大会の記録もよく整理されており、早くから詳細にわたり諸準備された実行委員会の方々に敬意と感謝を申し上げます。
▽新支部長の原稿内容に会員の減少と高齢化の課題が目立ちました。安達支部の宮前支部長は、会員数の変化を具体的な表で示されました。本会全体の課題だと思いました。
▽会報で数回紹介してきた東京支部の岡松栄子様が去る十二月にご逝去されました。ご冥福を心からお祈り申しあげます。(平野)

会報「吾峰」の原稿や作品等の送り先

宛先・連絡先

福島大学人間発達文化学類同窓吾峰会
〒960-8103 福島市舟場町4-30
福島大学街なかランチ舟場
電話024-529-7081 FAX024-529-7082
Eメール gohou@ktd.biglobe.ne.jp